

令和3年度 第1回学校協議会 会議録

1 日時 令和3年7月14日(水) 18時25分～

2 場所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員(50音順 敬称略)

産業高等学校元PTA会長	池内 美智子
産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
JFE継手株式会社	信貴 政則
岸和田市立中学校校長会会長	松田 篤人
産業高等学校PTA会長	藪 耕紀

(2) 学校

校長	楠戸 啓之
全日制教頭(司会)	大西 敦子
全日制教務部長(首席)	齋藤 良房
事務長(記録)	田中 幸博

(※校務により欠席 定時制教頭 榎本 正広)

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 令和3年度協議会委員紹介及び会長選出

会長に信貴委員を選出

(3) 会長挨拶

(4) 自己診断における令和3年度目標設定について(全日制)

◇齋藤教務部長

(目標設定は、全日制・定時制別でホームページの学校教育自己診断に掲載しています。)

- ・カッコ内は一昨年度で、その内昨年度の結果が80%を割り込んでいるものについて網掛けをしている。
- ・令和2年度も全ての項目の達成目標として80%以上を掲げた。
- ・令和2年度の結果は、非常に厳しい結果となっている。
- ・4番の「教科指導の充実について」は、一昨年度74%から66%と大きく下がっている。
- ・昨年度はコロナの影響で、学校のスタート自体が遅くなった。そのため授業計画が思ったようにいかず、その影響が表れた結果であるにとらえている。
- ・11番の「人権教育について」も、83%から70%に落ち込んでいる。
- ・これもコロナの影響で、生徒たちが集まった研修機会が非常に少なくなってしまったことが、この数字に表れていると考えている。
- ・その他の項目についても、80%を割り込んでいるところもあり、それらを踏まえて、取り戻せるところは取り戻せるように、また少しでも良くなるところは良くしていけるようにということで、先日策定会議を学校で開き、令和3年度も全ての項目について80%以上に目標を設定し取り組むことを確認した。
- ・令和2年度末に校内LANが整備され、リモートで講座が出来る環境に変わり、出来ること

がやや増えてきた。

- ・生徒に伝えるには対面が一番であるが、できないという状況ではなくなったので、一步前進と思っている。
- ・令和3年度は、感染状況等を勘案しながら、対面でできる場合は対面で、出来ない場合はリモートという手段を使いながら、目標の80%に到達できるよう学校としては努力していきたい。

○質疑応答

(委員) 生徒たちの理解を得るうえで、対面ができないというのは一番のネックであるか。

(事務局) 顔を見ながら話ができないというところはすごく大きかった。

(委員) 昨年度は特に、前半の4月5月が完全休校であったと思うが、その影響が大きかったか。

(事務局) 6月に分散登校が始まって以降、2ヶ月のブランクを埋める為に、土曜日に授業や考査、講座を組み込んだりというのはあったが、行事が全くできない状態であり、その影響は大きかったと感じている。

(事務局) 5月にリモートで伝達表彰、壮行会を行ったが、対面の重要さをつくづく感じた。ただ、できないよりはできたほうが良いとは思う。

(委員) 1番の「学校へ行くのが楽しい」79%は素晴らしい。勝手な予想だが5割いくかなと思ってた。それが8割近く学校へ行くのが楽しいというのは、学校の雰囲気がいい、先生や友達同士のコミュニケーションがうまく取れているからだと思う。

(事務局) 昨年度はコロナで行事が色々出来なくて、もっと下がると思っていた。こんな高い数字がでるとは思っていなかったなので、非常にうれしい数字である。

(委員) 産高のことではないが、先生方が校門や信号で立って、腕組みをして命令調で生徒を迎える姿をよく見る。そんなことをしていたら学校へ行くのが楽しくなくなると思う。先生方からおはようと声がけをしたら、生徒も元気よく学校へ入ってくれると思う。

(事務局) 生徒会で挨拶キャンペーンをしている。大人が挨拶をするより、生徒が挨拶をするほうが生徒達も気軽に挨拶を返せるということもあり、そういった取り組みをしている。

(委員) 挨拶は基本中の基本である。

(委員) 6番の「生徒指導について」が生徒にとっては耳が痛いこと、先生方も嫌なことを言わざるをえないことであるが、納得させるしかない。大変なことだと思う。

(委員) 学校へ行くのが楽しいというのは我々としては一番気にする数字。それがこれだけあるのは素晴らしいと思う。また、「実際に社会のルール・マナーについて学ぶ機会が多い」が84%ある。社会に出て必要と思うことを訴えているが、子どもたちにうまく伝わらないもどかしさがある。それは、中学も高校も一緒であると思った。我々がもう少し子どもたちにうまく入っていくよう工夫もしないといけない。

(委員) 子どもにマナーとかは、中々難しい。マナーをきっちり教えている家はどれだけあるか。子どもたちにすれば、面倒くさいことと思う。社会へ出て、一回頭を打つまでは分からないこともある。学校に行くのが楽しいのは、携帯で学校の情報が見られることもあると思う。この先、先生方の話を配信できたら素晴らしいと思う。何回も繰り返し分かるまで聞いてくる生徒にとっては、そういう配信があればいいと思う。難しいことではあると思うが。

(事務局) 自主学習のありかたの一つかもしれない。

(委員) 定時制の榎本教頭が不在ということなので、定時制の方は割愛する。もし何かあったら学校の方に質問をお願いします。

(5) 令和4年度 新カリキュラムについて（全日制・定時制）

◇全日制 新カリキュラムについて（齋藤教務部長）

（学校案内は、全日制・定時制別でホームページに掲載しています。）

- ・カリキュラムを新しくしたことに伴い学校案内を刷新した。
- ・キラキラした学校紹介を作りたいと現役の3年生に依頼、すごく良い学校案内が出来上がった。
- ・産業教育審議会の答申を受けて、特に今回は商業科のカリキュラム改変に重点を置いた。
- ・デザイン科・情報科は問題なく定員を確保出来ているが、商業科については非常に苦しんでいる状態である。
- ・本校だけでなく、大阪府内の商業高校においても非常に苦しんでいる。
- ・そういったことを踏まえ、どのようにすれば商業科において魅力的なカリキュラム、また、生徒が来たいと思えるようなカリキュラムが組めるか、しっかり考えて作った。
- ・目指す生徒像を科ごとに設定をした。
- ・商業科では、会計処理能力・ビジネス企画力・プログラミング能力の、3つのチカラをあげている。
- ・自主性を持って勉強に取り組めるようにということを目指し、3つのチカラをしっかり身につけて卒業してもらうために組んだのが今回のカリキュラムになる。
- ・商業科は、今までの伝統を大切にしながらその先を目指すために、これまで学校の中で培ってきた商品開発クラブの活動を念頭において、更に発展させていけるようなカリキュラムを組んだ。
- ・情報科・デザイン科においても、3つのチカラをあげている。
- ・令和4年度からは、選択科目を取り入れることによって、生徒たちのニーズにより対応ができるようにしている。
- ・特に商業科においては、マーケティングに力を入れている。1年生でマーケティングを学び、それをもっと掘り下げて勉強したいなら、2年生で、例えば地域探求あるいはビジネスマネジメントといった科目を選択し勉強することになる。
- ・生徒たち一人ひとりのニーズに合わせて、色々な勉強ができ、それを自主的に取り込むことによって目指す力を身につけることができるプログラムを目指した。
- ・情報科・デザイン科においても、専門科目について魅力を感じてもらえるように検討した。
- ・一般科目については、今までの基礎、基本の勉強にしっかり力をいれることを継承した形で、新しい教育課程に組み込んでいる。
- ・中学生に少しでも魅力を感じてもらおうと、マーケティング・商品開発と流通・観光ビジネス・地域探求といった新しい科目についての説明をわかりやすく載せたリーフレットも新たに作った。

○質疑応答

（委員）商業科で中学生にウケないというのは、どんなものがあるのか。

（事務局）ウケないのではなく、まず中学生は商業科がどういうものか知らない。中学校訪問をしている中でも、ひしひしと感じる。商業科とは何を勉強するところなのか中々理解してもらえない。そのため中学生が商業について分かりやすいように学校案内やリーフレットの文章に力を入れた。今まではどうしても硬い言葉、例えば簿記を勉強するとか、情報処理に力を入れるとかの表現になっていたが、そこから一歩踏み込んだ形で、文章を起こした。

(事務局) 今回の重要な点のもう一つが、今までにない選択制を取り入れたことである。商業科に入ってから自分の興味や関心に基づいて主体的に学べる、主体的に自分の学ぶ度合いを大きくできる、これが一番大きい点であると思う。また、生徒の目線で書いた文章を中学生に読んでもらうことで、授業で身につく内容や面白さがわかってもらえると思い、リーフレットの裏に生徒(卒業生)の文章を掲載した。

(委員) これで来年度からいくということか。

(事務局) 来年度1年生からいよいよスタートするということになる。

(委員) 確かに、簿記を勉強して資格を持てば会計士さんになるとか経理で会社に勤めるとか、ずっと仕事ができる。すごく息の長い仕事であるのに、中学生、高校生にはわかってもらえない。とりあえず、パソコンに慣れていこうという動きは大変重要だと思う。ぜひ来年度からよろしく願います。

◇定時制 新カリキュラム

(校務により榎本定時制教頭が不在のため大西全日制教頭より代理説明)

- ・定時制は、ルールという系列を設定して3年卒業コースで目標に挑戦する。それぞれビジネスルール、簿記会計ルール、プログラミングルール、国際交流ルール、観光ビジネスルールという形で、系列を作ったカリキュラムになっている。
- ・従来の4年制カリキュラムに加えて、より上級の資格取得を目指した積極的4年制コースを令和4年度から新設する。
- ・2年生終了時点で4年生卒業コースを選ぶことによって、より上級の資格を取得できるカリキュラムとなっている。

19時20分終了

※次回は12月中旬頃に開催予定。